

や す ら ぎ 通 信

第9号 (平成23年8月1日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

葉月(穂張り月)

栄冠は君に輝く

作詞 加賀大介 作曲 古関裕而

雲はわき 光あふれて
天たかく 純白の球きょうぞ飛ぶ
若人よ いざ
まなじりは 歓呼にこたえ
いさぎよし ほほえむ希望
ああ 栄冠は 君に輝く

風をうち 大地をけりて
悔ゆるなき 白熱の力ぞ技ぞ
若人よ いざ
一球に 一打にかけて
青春の 賛歌をつづれ
ああ 栄冠は 君に輝く

空をきる 球のいのちに
かようもの 美しくにおえる健康
若人よ いざ
みどり濃き しゅろの葉かざす
感激を まぶたにえがけ
ああ 栄冠は 君に輝く

いよいよ夏の甲子園、このシーズンになりますと高校野球ファンとしては「血湧き肉躍る」シーズンを迎えます。盛夏まったただ中、皆さんいかがお過ごしですか。今年は節電の影響で一段と厳しい夏を迎えておりますが、熱中症にはくれぐれもお気をつけてください。とにかく熱中症予防には水分を欠かさず取ることが大切だとされています。特に、中高年の皆さん、のどの渇きを覚えなくても、こまめに水分補給をしましょう。

万代池の風景も、この時期うだるような暑さの中、木々も多少うだっているような風景となります。その中で、朝から元気なのは、セミたちです。特に、近年大量に発生しているのはクマゼミです。「シャンシャン」「シャカシャカ」と朝から大音量を奏でます。クマゼミが鳴くのは早朝から11時頃までといわれており、その頃になると体力を使い果たして鳴きやむようです。夏の風物詩とは言え、あまりにもやかましいと感じられる方も多いのではないのでしょうか。

セミと言えば、6月末頃から「ジー」と鳴く小型のニイニイゼミが最も早く現れ、次いで夏本番になれば、「ジーン ジーン」と鳴くアブラゼミ、さらには「ミーン ミーン」と鳴くミンミンゼミ、そしてセミの王様クマゼミが登場し、夏は最も暑い季節を迎えます。そして夏が終わりに近づき日が早く落ち出し朝夕が涼しくなり始めますと、独特の音律で鳴くツクツクボウシが鳴き始め、長い暑い夏の終わりを告げます。また、ヒグラシは、秋の季語とされているようですが、日本列島では6月末から現れ、夏の終わりまで細く長く鳴き続けるようです。「カナカナ カナカナ」とけたたましく鳴く声にときどきお目にかかりますね。

ところで、このセミの仲間は、一昔前までは、バラエティよく一通りお目にかかれたような気がします。しかし、今では、例えばミンミンゼミはあまりお目にかかれません。これは、ミンミンゼミはもともと暑さに弱く、緑の少なくヒートアイランド現象が発生する都市部では、生息できなくなっているからだと言われていました。今日ではミンミンゼミは、郊外の緑地の多い涼しい場所に引っ越してしまったようです。他方、幼虫が湿気のある土地で生育するニイニイゼミは、従来郊外の湿地が多いところに生育していましたが、近年は都市部でも多く見られるようになり、これは、ニイニイゼミ自身が乾燥土壌でも生息できるよう変化を遂げたからだとも言われています。

地球環境問題にからめて、近年「生物多様性」の重要性が指摘されていますが、夏のセミがクマゼミ一色で占められる最近のセミの棲家事情も、危機に瀕している地球環境とは無縁ではないと思われそうです。

2018年の冬のオリンピックの開催地が韓国平原道平昌(ピョンチャン)市に決まりました。先月南アフリカのダーバンで開かれたIOC(国際オリンピック委員会)総会で、第一回

投票で過半数の 63 票を獲得し、ミュンヘン市 (25 票) とフランス・アヌシー市 (7 票) を大差で抑え、選出されました。3 都市以上の競争で 1 回目の投票で決まったのは、02 年冬季大会のソルトレークシティ市(アメリカ)以来とのことだそうです。また、平昌市は過去三度最終投票に残りながら僅差で敗れ、3 回目の挑戦で、ついに悲願のオリンピック開催都市の栄光を手に入れたのです。

ところで、このダーバンでの決定の瞬間をとらえた映像がテレビで流れました。皆さんもご覧になった方が多いと思います。喜びに沸く平昌市民、その中で総会会場にいたイ・ミョンバク大統領が広報大使を務めたキム・ヨナさんの手を取りがちり喜びの握手。キム選手の目にはうっすらと涙という光景だったように記憶しています。

そして、このあと、画像はキム・ヨナさんによる喜びのスピーチ。これが、この一連のニュース画像のなかで一番印象的な画像でした。それはバンクーバーオリンピックのゴールドメダリストのスピーチであること、日本でも馴染みの深い、また浅田真央選手の宿命のライバルであるキム・ヨナさんが発するスピーチであったからです。しかし、それ以上に見る人に強いインパクトを与えたのは、スピーチで彼女が語った英語が完璧であったことです。

ジャパンタイムスの契約コラムニスト Jack Gallagher 氏は、「Her final presentation to the IOC member was fantastic and done in nearly perfect English.」(彼女の IOC 委員に対する最終プレゼンテーションはファンタスティックでかつ、ほとんどパーフェクトに近い英語を使った。)と欧米人から見た目で絶賛しています。

ボーダレス社会の到来のなかで、スポーツに限らず様々なジャンルの国際交流が今や日常茶飯事になっている今日、日本の多くの若者も海外で挑戦し、活躍しています。しかし、語学力という点では、日本人はどうしても見劣りがしてしまいます。これは杞憂であればと思いますが、今回のキム・ヨナ選手の素晴らしい英語でのスピーチを聞いたとき、瞬間的にその英語の美しさに感嘆するとともに、果たして、日本のトップアスリートのなかで、このような美しい英語を話せる選手がいるだろうかと自問したときに、悲しいかな誰も浮かんでいませんでした。

語学力というのは、特に政治や経済に携わる人々に要求される不可欠の素養です。タフな相手と行う「タフネゴシエーション」には語学力が不可欠です。それも、できるだけネイティブなしかも相手をうならせる華麗な英語で交渉すれば、それだけでも入り口で優位にたてます。

この、平昌オリンピック開催地決定に当たったのニュースで、改めて小さい頃からの生きた英語教育の必要性が痛感させられました。皆さん方はいかにお思いですか。

最後に、このキム・ヨナ選手のその喜びのスピーチの一端をご紹介しますおきましょう。

“T e n years ago, when Pyeongchang began its dream to host the Winter Games, I was a young girl beginning my own Olympic dream in an ice rink in Seoul.

I am an example of a living legacy of our governmental’ s effort to improve the standard of Korean winter sports.

We are gone so much for this moment. Wining the Olympics was a personal priority , but Pyeongchang is a national priority.”

(「The Japan Times」 2011 .7.10)

(10 年前、平昌市が冬季オリンピックを開催したいとの夢を持ち始めた頃、私は、ソウル市内のスケートリンクで私自身のオリンピックへの夢を持ち始めた一少女にすぎませんでした。政府は韓国のウインタースポーツのレベルを何とか上げたいという国家レベルの努力をしてきましたが、私はちょうどその実例になったのです。

この瞬間を迎えるまで、私たちは多くのことを経験してきました。オリンピックで金メダルを取ることは、私の私的な目標でしたが、ピョンチャンオリンピックを実現するのは国民挙げての目標だったのです。)

2018 年、1998 年の長野オリンピックから 20 年後という節目の年に、お隣の国韓国でアジアで 3 度目の冬季オリンピックが開催されます。

1998 年は世界人権宣言が国連で採択されちょうど 50 年。当時の I O C サマランチ会長は長野オリンピックの開会あいさつでそのことに触れ、世界各地で起こっていた地域戦争のすべての当事者たちに長野オリンピックの期間中の停戦を呼びかけました。

オリンピックは単なるスポーツの祭典ではなく、国際オリンピック憲章にありますように「平和の達成と人権の擁護」という崇高な世界の普遍的価値をスポーツを通じて実現しようとするムーブメントです。

「New Horizon」(新たな地平) というテーマをもとに勝利した平昌オリンピックは、オリンピックの開催を通じ人類の平和と幸せのためにどのようなメッセージを発信するのかがこれから問われていくのではないのでしょうか。

そして、私たちとしては、その成功を心からお祈りするとともに、是非、その時には、日本のアスリート達が素晴らしい活躍をし、頂点を極めたら、素晴らしい英語で自らの思いを世界の人々に向け、スピーチすることを夢見たいと思っています。

それでは、今月のご紹介をはじめましょう。

大阪南部地域で専門医療機関が少ない甲状腺疾患の外科外来を先月から開設いたしました。また、昨年好評を博しました連携シンポジウム「生と死を、今考える(2)」を今年も行います。その予告も掲載しました。

NEWS

【(新) 甲状腺外科外来を開設しました ―耳鼻咽喉・頭頸部外科―】

このたび、耳鼻咽喉・頭頸部外科では、甲状腺外科外来を開設いたしました。今後甲状腺外科の検査・治療の窓口として院内外からの診察依頼を幅広く受け付けます。

甲状腺疾患の患者さんを対象に、即日超音波検査（細胞診を含む）と血液検査を行い、速やかに診断を行います。

外科的な治療が必要な場合は手術治療を行います。

さらにバセドウ病や悪性甲状腺腫に対して、I-131 によるR I 治療が必要な場合も、画像診断科、放射線治療科と連携して治療を行います。

内科的な投薬治療を行う場合は、糖尿病代謝内科と協力して診療を行いますが、慢性期の疾患の場合は、地域のクリニックをご紹介させていただきます。

開設日 月 ・ 水 ・ 金 の午後
お問合せ先 耳鼻咽喉・頭頸部外科 主任部長 坂田義治

【(再) 皮膚良性色素性疾患用の最新式のレーザー装置が導入されました

―形成外科―

4月から、従来使用していましたQスイッチ付きアレキサンドライトレーザーに代わり、最新式のQスイッチ付きルビーレーザーを導入いたしました。対象疾患は、Qスイッチ付きアレキサンドライトレーザーとほぼ同じですが、従来保険適用であった太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性色素沈着に加え、以前から治療要望の多かった扁平母斑も保険適用になりました。また、保険適用はありませんが、一般に「しみ」と呼ばれる色素班の中でも老人性色素班等（肝斑は効果はありません）はこのレーザーに良い適応があります。

お気軽にご相談ください。なお、レーザー治療は毎週月曜日の午前中に行っていますが、完全予約制となっており、事前に一度当科外来をご受診のうえで、予約を取っていただき、専門医の診察・治療をお受けいただくこととなります。

【(新) 今年も相愛大学生が、小児科病棟にボランティアに入ります】

昨年、相愛大学人間発達学部子ども発達学科の4回生が、インターンシップ活動として小児科病棟に二人ずつ1週間単位で入り、入院中の子どもたちやお母さんのお話し相手、子供たちへの絵本の読み聞かせなどの活動をしていただき、大好評を博しました。

今年も、ボランティア活動として、今年から、昨年と同じ二人ずつ1週間単位で入っていただくことになりました。小児科病棟には、すでにタリーズコーヒーが、保育士資格を持っておられるスタッフ中心に2か月に一度の割合で、子供たちに絵本の読み聞かせや紙

芝居の上演などを行っており、大変喜ばれています。今月から始まる相愛大学生の活動により、子供たちの笑顔と喜びの声が小児科病棟にいっぱいあふれるよう願っています。

(ボランティア) 相愛大学人間発達学部子ども発達学科4回生

(活動期間) 8月15日(月)～9月

【(再) 診察予約変更センター設置－6月から11の診療科において診察の予約日・時間の変更が電話でできるようになりました！】

当センターでは、6月から11診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しました。

これは、当センターが進めています「患者さんにとって利便性の高い病院づくり」の一環として導入整備したもので、急な用事や体調変化で予約された日時に診察のために来院できなくなった場合に、電話で日時の変更ができるサービスをご提供するものです。

予約変更を電話でできるのは、以下の診療科です。是非、積極的にご利用ください。

なお、このサービスは初診に関しは行っておりませんので、ご注意くださいますようお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201(代表)にダイヤルして「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科
免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【(再) 入院治療費の概算を予めお知らせすることを始めました】

昨年度実施しました患者満足度調査におきましては、入院時にいくら程度医療費がかかるか事前に教えてほしいというお声が多く寄せられました。

このため、当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター(やすらぎセンター)を5月から整備したことに合わせまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを開始しました。

お知らせの方法は、当面、患者さんにお渡しする「患者さん用クリティカルパス(治療計画書)」の中に記載してお知らせする診療科と、口頭でお知らせする診療科に分かれますが、最終的にクリティカルパスに記載する方法に統一をすることになっています。

【(再) 当センター22年度決算13億1千万円の黒字－3年連続の黒字を達成】

当センターにおきましては、病院が府の経営を離れ独立行政法人の経営に移管された平成 18 年度以降、大胆な経営改善努力を続けてまいりました。その結果、20 年度決算におきまして初めて 3 億 7 千万円の黒字に転換することに成功し、さらに経営努力を持続した結果、21 年度決算においては 10 億円の大黒字を達成しました。

22 年度は診療報酬の改定もあり、最終的に概算で引き続いて 13 億 1 千万円の大黒字を達成する見込みとなりました。当センターにおきましては、これら経営改善の成果を、医療機器・設備への投資、医療スタッフの増員、患者さんの満足度向上のための投資等に振り向けることにより、医療サービスの質の向上に取り組んでおります。

今後とも、安定した経営基盤のもとでよりよい医療をご提供し、皆様方のご期待に応えてまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

今月の催し

【(新) チビッコあつまれ～たのしい おんがくかい —

音登夢キッズ 夏休みコンサート】

— バイオリンとチェロのデュオ「音登夢（おととむ）」と

その門下の子どもたちによるコンサートです！—

(演奏曲目) ヴィバルディ「四季」より「春」

トトロのさんぽ ほか

日時 8月3日(水) 午後2時～2時30分

場所 3階講堂

【(継) 第13回相愛大学連携コンサート】

— 連弾芸術！ 真夏の夢はピアノデュオの感動に乗せて —

(演奏) 大西真衣(相愛大学音楽学部4回生)

榊田朱里(相愛大学音楽学部4回生)

(演奏曲目) モーツァルト「4手のためのピアノソナタKV358」

ブラームス「ハンガリー舞曲第1番、第5番」ほか

日時 8月25日(木) 午後2時～2時30分

場所 3階講堂

【(継) 大好評！！

相愛大学連携・外来糖尿病教室～知って得する！糖尿病の付き合いかた～】

— 今月は お休みをいただきます。また、来月から実施します。 —

【(継) 今月の すこやかセミナー】

一 脳卒中のリハビリテーション 一

日時 8月26日(金) 午前11時～12時

場所 3階保健教室

講師 リハビリテーション科

理学療法士 轟 佳代

(参加費無料)

【(継) 現代美術空間—病院ギャラリー 第4回企画展—開催】

「やすらぎの木版作家—浅野竹二 初期情景版画展—新京名所と新大阪風景」

日時 平成23年12月22日(木)まで

場所 本館2階ギャラリー (入場無料)

浅野竹二は、1900年京都生まれ。京都市立絵画専門学校で日本画を学んだ後、油絵を始めますが、再び日本画を描き始め、日本画家として活躍します。1930年頃からは、木版画の制作を始め、写実的な「名所絵版画」を制作する一方で、自由に自分の感性を表現した『創作版画』を制作し、大胆なフォルムと色彩で構成されたユーモア溢れる作品を発表しました。

今回の企画展では、このような浅野竹二の作品の中で、初期(1930年代初め)の作品の「名所絵版画」の中から新京名所と新大阪風景を取り上げました。

なお、本作品展は、大阪府立現代美術センターのご協力で開催しております。

【(継) 予告：第2回やすらぎ寄席—落語の会】

日時 9月26日(月) 午後2時～

場所 本館3階講堂

出演 若手中堅落語家 桂 かい枝

主催 万代やすらぎ亭

(入場無料)

【(継) 予告：第3回やすらぎ寄席—講談の会】

日時 11月29日(火) 午後2時～

場所 本館3階講堂

出演 女流若手講談師 旭堂 小二三

主催 万代やすらぎ亭

(入場無料)

【(新) 予告：連携シンポジウム

「生と死を、今考える（２）－やすらぎのがん医療をめざして」

昨年開催しました「生と死を、今考える」の第２弾！です。

今回は、当センターと相愛大学に加え、同じく包括連携協定を締結している森ノ宮医療大学も主催者に加わり、東洋医学の視点も加え、医療関係者と宗教関係者のトークとディスカッションにより、究極のがん医療としての「やすらぎのがん医療」について会場の皆さん方とともに考えます。

日時 11月5日（土）午後1時～午後5時10分（予定）

場所 3階講堂

催し告知は9月から、申し込み受付は10月から行う予定です。

【(新) 予告：当センター・相愛大学コラボ事業 ー第2回糖尿病予防セミナーー】

日時 11月12日（土）午後1時30分～午後3時30分（予定）。

場所 3階講堂

催し告知は9月から、申し込み受付は10月から行う予定です。

Topics

【(再) 23年度機器整備でPET-CTを導入！】

がん診療の拠点病院として、がんの診断機能を一層強化することを目的に、23年度の医療機器の整備の一環としてPET-CTを導入することになりました。

整備時期は、年度後半になる予定ですが、詳細が決まり次第、本通信でもお知らせいたします。

【(新) 新名所：やすらぎのプロムナードー北側通路周辺ー】

当センターでは、「やすらぎの医療空間」づくりの一つとして、本館と中央館の連絡通路から北側に伸びた通路周辺の緑地の再整備を行い、患者さんやお見舞いの方などに“緑の憩いの空間”を楽しんでいただいております。ベンチや丸テーブルでタリーズのコーヒーやえびすカレーのテイクアウトカレーを持ち込んでランチを楽しんでおられる方も多くみられます。クマゼミの木にとまっている姿が間近に観察でき、午前中は元気な鳴き声も聞くことができます。

是非、ご来院の折には、お立ち寄りください。

今月のコンシェルジュ

【(新) コンシェはどんな人？ーリーダー高柳さんの巻ー】

今月から、コンシェルジュスタッフの自己紹介をさせていただきます。

まずトップバッターは、リーダーの高柳さんです。

高柳リーダー

「私は、コンシェルジュの仕事始めて7年になります。人と接することが大好きです。大きな病院で戸惑ったこともあります。この仕事に大変やりがいを感じています。患者さんから『あなたのような人がいるから安心してこの病院に来られる』というお言葉をかけていただくとき、最高に喜びを感じます。私たちがいることにより、大きな病院にストレスを感じることなくご来院していただけるよう、頑張っていきたいと思います。どうぞ、よろしくをお願いします。」

その他のお知らせ

【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。

なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動清算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。これらの金融機関は J-Debit に加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。

なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます。

当センターは、院内が

「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」

となるよう日々努力します。